

【表1】海上自衛隊及び米海兵隊の航空機の騒音データ比較

| 所属 | 航空機の種別 | 航空機から測定地点までの距離 | |
|-------|--------------------|----------------|------|
| | | 250m | 500m |
| 海上自衛隊 | P-3C | 89dB | 83dB |
| 米海兵隊 | MV-22オスプレイ(固定翼モード) | 83dB | 77dB |
| | MV-22オスプレイ(転換モード) | 83dB | 76dB |

【参考】騒音の大きさの目安

| 音量 | 内容 |
|-------|---------------|
| 100dB | 電車が通る時のガード下 |
| 90dB | ピアノ、犬の鳴き声 |
| 80dB | 交通量の多い道路 |
| 70dB | 電話のベル |
| 60dB | 普通の会話、静かな乗用車内 |

※【表1】【参考】いずれも九州防衛局資料

【図1】平成30年12月17日のオスプレイ展示飛行騒音測定結果



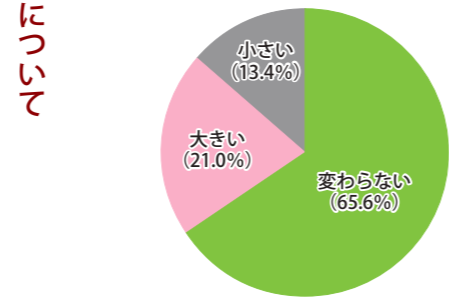
の平均値で、dB(単発的な騒音)とは違い、比較することはできません。

展示飛行後に騒音アンケートを実施

今回のMV-22オスプレイの展示飛行実施に伴い、市は、鹿屋航空基地周辺の小中学校、幼稚園、保育園の関係者や、畜産農家、町内会長など約150人を対象に、P-3Cや海上自衛隊所属ヘリコプターとの騒音の比較についてアンケートを実施しました。

その結果「変わらない」「小さい」と答えた人が約8割となりました。

MV-22オスプレイと他の航空機との騒音比較について



今後について

鹿屋航空基地での空中給油機KC-130の訓練開始時期は未定ですが、引き続き訓練の安全性の確保について、防衛省を通じて米軍に要請してまいります。



市内上空を飛行するオスプレイ

MV-22オスプレイが初飛来

米軍岩国基地(山口県)の空中給油機KC-130の訓練の一部移転が予定されている海上自衛隊鹿屋航空基地。この訓練には、MV-22オスプレイも参加が予定されています。

このような中、平成30年12月、市内でMV-22オスプレイの展示飛行が初めて行われました。ここでは、展示飛行の様子や騒音調査などについて紹介します。 **市政策推進課** Tel.0994-31-1125

市内上空を展示飛行

平成30年12月17日、MV-22オスプレイ1機の展示飛行が実施され、鹿屋航空基地周辺には、実物を見ようと多くの皆さんが集まりました。

今回の展示飛行は、市民の皆さんからいただいた、「実物を見たい」、「音を体感したい」などの要望等を踏まえ、飛行の状況などをご自宅等で確認いただくために実施されたものです。

この日、MV-22オスプレイは鹿屋航空基地の東側から進入し、通常P-3Cなどが飛行する鹿屋航空基地の場周経路を約20分程度、飛行しました。

※場周経路とは、着陸する航空機の流れを整えるために滑走路周辺に設定された飛行経路のこと

騒音測定を実施

次のページの表1は、九州防衛局が示した、海上自衛隊と米



▲騒音測定の様子

海兵隊航空機の騒音データです。これによると、P-3CよりMV-22オスプレイのほうが騒音の数値が低いことがわかります。

当日は、九州防衛局が小塚公園、岡泉公民館、野里集落センター、南部学校給食センター、衛生処理場、鹿屋東地区学習センターの6か所で騒音測定を行いました。

また、市が設置している観測地点の新川町内会長宅、西原地区学習センターの2か所でも測定を行いました。

測定結果は、飛行経路や風速、風向き、気温等の気象条件によって、音の大きさに違いが生じる場合がありますが、今回は、図1のような騒音が測定されました。

なお、防衛省住宅防音工事の対象基準となる「75 dBA」は、一定の時間における騒音の合計



▲固定翼モード



▲転換モード

訓練移転に関する協定書

平成28年2月2日、市は九州防衛局と「空中給油機KC-130の鹿屋基地におけるローテーション展開に関する協定書」を締結しました。協定書に基づく鹿屋航空基地での訓練内容は、次のとおりとなっております。

① 離着陸訓練

空中給油機KC-130が、海上自衛隊のP-3Cと同じ場周経路を飛行し、タッチ・アンド・ゴーや滑走路の特定の位置に停止する訓練

② 地上給油訓練

地上に駐機したKC-130から、米軍のCH-53等のヘリコプターやMV-22オスプレイに給油を行う訓練

③ 荷下訓練

KC-130の後部ハッチを開けた状態のまま、地上を走行しながら、貨物用パレットを下る訓練

※MV-22オスプレイは、地上給油訓練のみに参加予定